民報ゆうばり

「戦争法」の廃止を求め南空集会開催！

初の10団体での実行委員会～約250名が参加！

民主主義ってなんだ！選挙に行こうよ！ちゃんと選んで！　次の世代のため！

6月11日、岩見沢市民会館において、「安全保障関連法（戦争法）の廃止を求める南空知集会」が開催され、約２５０人が参加しました。

この集会は、戦争法の廃止を願う一致点で、南空知地域の団体・個人による共同の取り組みとして開催されたものです。

同実行委員会は、平和運動フォーラム空知地域協議会、南空知憲法共同センター、憲法を語ろう会、南空知退職教職員協議会、日本キリスト教団岩見沢教会、同美唄教会、岩見沢９条の会、ＪＲ総連岩見沢支部など、市民団体・労働組合など10団体で構成され、連合空知地域協議会と岩見沢労働組合総連合が協賛団体になりました。

集会では、小樽商大名誉教授・戦争をさせない北海道委員会呼びかけ人である結城洋一郎氏が「戦争法制撤廃と改憲阻止に向けて」と題して講演し、自民党の改憲草案が「国民を縛るもの」であることを解き明かしました。

参議員選挙で改憲勢力の議席を減らすことを訴え、また衆議院選挙小選挙区で勝利する展望にも言及して講演を結びました。

民進党の神谷裕産党の上田久司南空知地区委員長、社民党の浅野隆雄北海道副代表３氏が挨拶し、「戦争法廃止」と「参院選での改憲議席減」、「安倍政権打倒」などを訴えました。

終了後、ＪＲ岩見沢駅前まで、デモ行進で街頭からアピールました。

デモ先頭の宣伝カーは、「選挙に行きましょう、安倍政権を退陣させましょう」と、同集会実行委員会で協議したナレーションを市民に訴えました。

生まれて初めてデモに参加し、慣れないながらハンドマイクでコールした、労組青年部の若者の活躍もありました。

ドラムをたたきリズムをとって、「戦争放棄を誓ったはずだ」「ちゃんと選んで投票に行こうよ」など、力いっぱいコールしてアピールする高校生等も参加し、沿道の市民の注目を集めていました。

全日本年金者組合夕張支部　定期大会

6月16日、全日本年金者組合夕張支部は第29回定期大会を、新篠津温泉たっぷの湯で開催しました。

運動方針で、昨年9月の戦争法強行採決以来、全国で沸き起こった野党共闘を求める国民運動がかつてない大きなうねりとなっていることをふまえ、7月の参院選挙で勝利し自公政権に退陣を求めようと確認しました。

この他、予算案を確認し、執行部に田代委員長はじめ旧執行部を再選し終了しました。

議会開催中のため参加出来ないくまがい市議のメッセージ紹介がありました。

くずさんの夕張歴史散歩（50）

ガス・炭塵爆発のものすごさ

空前の出来事、若鍋坑

炭鉱事故史の第三位に並ぶ若鍋坑ガス爆発のすごさは、記録によると、

「西一番坑道の坑口から吹き出した炎は、一〇数メートル離れた巻揚機を焼き、風圧で輸車路を四〇㍍吹き飛ばしたという激しさで、つぎつぎと炭塵爆発を誘発」していきました。

犠牲になった**四二三名**のなかには、**女坑夫40人、未成年の坑夫57人**が含まれていたと記録されています。

人命よりも坑道維持を優先

更に四日後の一二月二日午後九時になって、坑口から約三千尺のところで火災が起き、犠牲者の三分の二を残したまま密閉・水没させてしまいました。

同じ手口は、北上坑（北炭・第二斜坑）の時も変わりませんでした。

残酷・北上坑

北上坑は、一九〇五年一月に**36名**、一九一二年四月に**二六六名**、同年十二月に**二三三名**、一九一三年一月に**49名**と、合わせて**五八四名**の死亡犠牲者を出したヤマですが、特に一九二〇年六月のガス・炭塵爆発**二〇九名**の犠牲は激しいものでした。**（前記）**

「午後４時５０分、坑口から二キロ先の市街地はおろか四キロ離れた鹿ノ谷駅まで爆発音がとどろき、錦＊（坑口の向い側に位置する居住地域）までトロッコの破片や黒こげの支柱材が飛び、坑口付近の輸車路が一〇㍍ほど跡かたもなかった。

そして坑口の近くで作業中だった坑外作業員７人も、吹き出した圧風と熱で重傷を負い、内３人はその夜病院で死亡した。」

そして、坑内に残る二百余名の坑夫たちの脱出・救出を待たず、坑口を密閉し坑道を守るのです。

人命よりも坑道維持を優先して、人間の尊厳など一切無視されたのです。

紙智子「こっかいかける記」

参議院議員

紙　智　子

野党と市民の共同で政治を変えよう

気温が三〇度を越えた六月中旬、秋田県でも野党統一候補が決まり「あきた立憲ネット」と政党の四者が主催した「六・一九あきた総決起集会」に参加しました。日本共産党からは私が、民進党は山尾しおり政調会長、生活の党は山本太郎参院議員、社民党は県会議員、秋田出身の民進党の寺田すけしろ参院議員（もと秋田知事）、そしてシールズの諏訪原健さんらが勢ぞろい。

ＪＡ秋田駅前のアゴラ広場は、おおぜいの参加者であふれ、さらに熱気で気温が上昇。壇上に立った野党統一候補は、「統一できたことに感謝したい、統一の一番の功労者は、共産党の候補者です」と比例候補にまわった日本共産党の女性候補を紹介しました。あたたかい拍手が沸き起こると、すかさず寺田すけしろ参院議員は、席を立って自分の席を女性候補者に譲る一幕もありました。

野党統一候補は、野党統一の力で安倍自公政権に勝ちぬく選挙だと強調し、北海道五区補欠選挙のように、一人ひとりが自分の選挙としてたたかってほしい。負けるわけにはいかないと決意を語りました。秋田を含む東北五県で農協系団体は自民党を推薦せず自主投票を決定しました。安倍晋三首相は遊説先に東北を選び「秋田のおいしい米の輸出戦略で農家の所得を上げる」と訴えたそうですが、野党と市民の動きにおののいている表れです。

五区補欠選挙で弾みをつけた北海道でこそ、野党と市民の共同で政治を変え、日本を変える闘いに、いざ！